

マウス開発研究室(小出研究室)

【研究グループ】

准教授: 小出 剛

TEL:055-981-5843

FAX:055-981-5844

e-mail: tkoide@nig.ac.jp

Home page: 「行動遺伝学」で検索!

助教: 高浪 景子

総研大生: D5 上田 奈央子(学振特別研究員)

D4 Lalitha Devi (国費留学生)

D2 Bhim Biswa



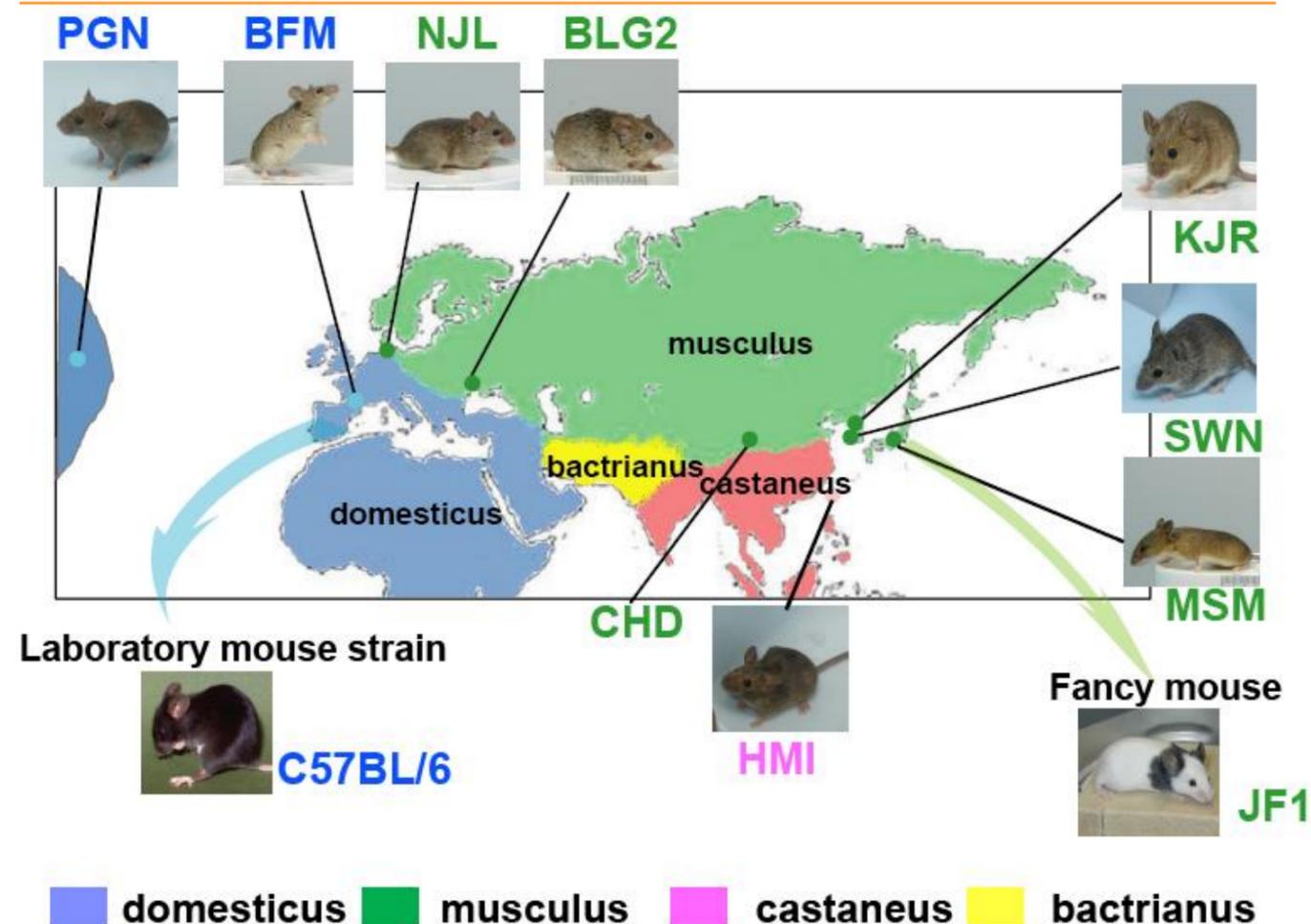
21世紀の遺伝学は個人差を決める遺伝的機構の解明が重要になります

ヒトの顔や体質と同様に、性格や行動も遺伝的要因の影響を強く受けることがこれまでの研究から示唆されてきました。私たちは、遺伝的多様性に富む野生由来マウス系統を用いて、行動表現型の多様性を明らかにし、その原因となる遺伝的機構を明らかにしていこうと研究を進めています。さらに行動遺伝学で見つかった遺伝子について、CRISPR/Cas9を用いたゲノム編集の手法を用いて遺伝子改変マウスを作製して、その遺伝子機能の解明を進めています。

行動は遺伝しますか？

Wild mouse strains - *Mishima battery*

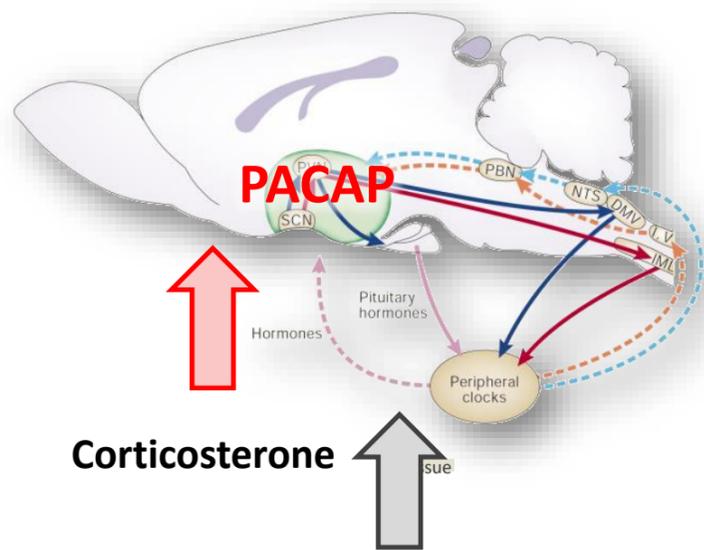
野生由来マウス系統の起源



研究プロジェクト

マウス不安様行動の解析

一般的に野生由来マウス系統は高い不安様行動を示すことがわかっています。これまでに、6番染色体上にその責任遺伝子をマッピングし、さらに分子遺伝学的解析により遺伝子の同定をしました。その結果、同定された遺伝子のストレス調節に関わる重要な役割が明らかになりました。



高い不安様行動をもたらすメカニズムを解明

痒みの感受性の遺伝学的・神経学的基盤

痒みの感受性は絶対的なものではなく、環境要因や社会的要因により大きな個人差が生まれます。また、ストレスを受けると痒みが悪化したり、痒みを連想するだけで痒くなったり、情動や認知機構と痒みは密接にリンクしています。私たちは、行動遺伝学・神経解剖学という観点から、社会性が痒み感覚に与える影響とその遺伝的基盤の解明に取り組んでいます。



かゆみの指標となる掻き行動解析

ヒトになつくマウスの遺伝学的・神経学的基盤

家畜化された動物の従順性とは「動物個体が人を避ける傾向が弱くなる」か、あるいは「積極的に人に近づく傾向が強くなること」の二つに分けられます。私たちは、この二つの従順性を分けて調べる行動テストを考案しました。この行動テストを用いて、その結果を基に遺伝的に多様な野生由来マウス集団を選択交配することで、自らヒトに「なつく」マウスを作出することに成功しました。このヒトになつくマウスを用いて、遺伝的基盤、神経回路、行動学的基盤について研究しています。



遺伝的にヒトに「なつく」行動を示すマウス

アフリカの大型齧歯類グラスカッターの家畜化

西アフリカに生息する大型齧歯類であるグラスカッターはその肉が美味であることから現地で食用として珍重されています。しかし、もっぱら野生個体の捕獲により食されているため環境への悪影響や感染症の広がりが懸念されます。そこで、グラスカッターを家畜化するためのプロジェクトに参加し、ガーナ大学、エジンバラ大学、京都大学と共同でゲノム育種を進めています。



アフリカの大型齧歯類グラスカッター

行動遺伝学にチャレンジしたい方はぜひ連絡を！